

2021年4月9日

香川大学とサボア・モンブラン大学(フランス)との 大学間学術交流協定(更新)オンライン調印式を実施します。

香川大学とサボア・モンブラン大学とは、交流の一層の強化に合意し、大学間学術交流協定を締結（更新）することとなりました。更新締結にあたり本学初となる、海外の大学とのオンライン調印式を下記のとおり実施します。

本学とサボア・モンブラン大学とは、2000年4月に工学部（現創造工学部）を主管部局として大学間学術交流協定を締結し、以来、教職員や学生の相互派遣や共同研究を実施し、積極的な交流を展開しています。2009年に本学は、サボア・モンブラン大学を海外教育研究拠点校として位置付けています。

（交流の経緯・実績等は別紙のとおり）

更新締結を機に、学生・教職員の人的交流および学術交流がさらに活性化されることが期待されます。

記

1. 日 時 2021年4月16日（金） 16:00～17:00（日本時間）
9:00～10:00（フランス時間）
2. 会 場 香川大学 グローバル・カフェ（幸町北キャンパス OLIVE SQUARE 2階）
オンライン接続（フランス）

3. 出席者

【香川大学】

- ・学 長
- ・理事・副学長（教育担当）
- ・理事・副学長（研究・産官学連携・教員評価担当）
- ・副学長（国際戦略・グローバル環境整備担当）
- ・創造工学部長
- ・学長特別補佐
- ・学長特別補佐
- ・インターナショナルオフィス会議委員等

寛 善行
今井田 克己
片岡 郁雄
徳田 雅明
末永 慶寛
原 直行
和田 健司

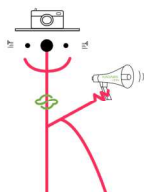
【サボア・モンブラン大学】

- ・学 長
- ・副学長
- ・インターナショナルオフィス長
- ・Engineering school Polytech 学部長
- ・Engineering school Polytech 副学部長（国際交流担当）
- ・IUT Chambéry 学部長
- ・IUT Chambéry 教員
- ・IUT Chambéry 教員
- ・在リヨン日本領事事務所

Philippe Galez
Laurence Vignollet
Emilie Viret-Thasiniphone
Philippe Bolon
Adrien Badel
François Palumbo
Sylvie Neyertz
Virginie Colombel

4. 次 第

- (1) 開式の辞
- (2) 香川大学長挨拶
- (3) サボア・モンブラン大学長挨拶
- (4) 協定書調印
- (5) 写真撮影（協定書調印後の両学長）
- (6) 交流経験学生のスピーチ等
- (7) 写真撮影（集合写真）
- (8) 閉式の辞



➤ 問い合わせ先

香川大学 教育・学生支援部

国際グループ 中川・篠原

TEL: 087-832-1178 FAX: 087-832-1192

E-mail: kokusait@kagawa-u.ac.jp

香川大学とサボア・モンブラン大学との交流の経緯・実績等

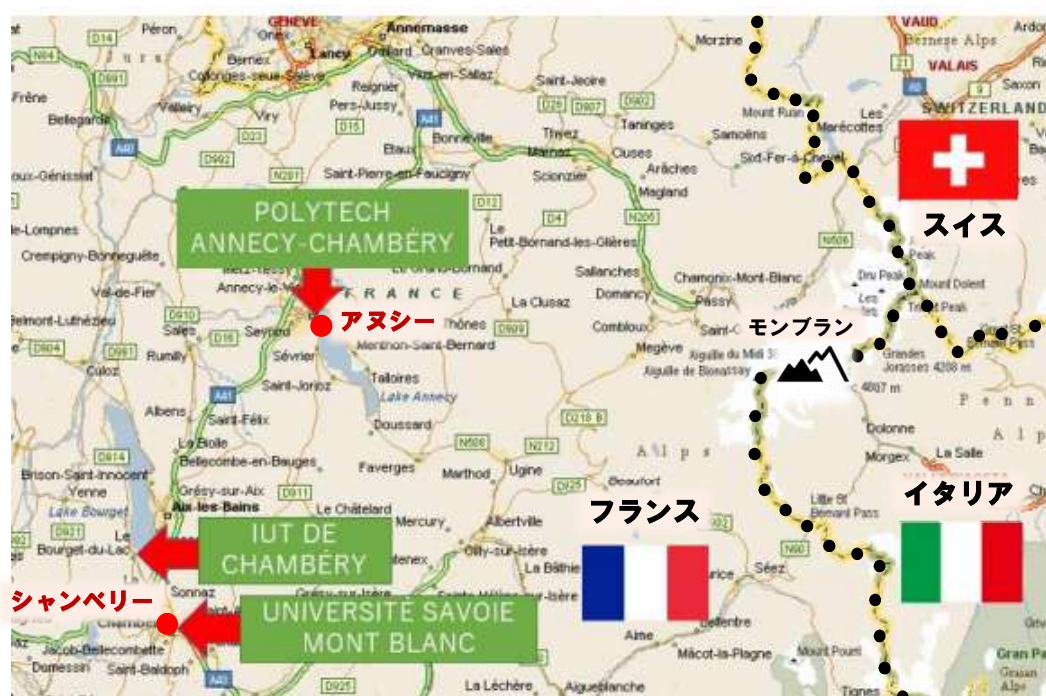
サボア・モンブラン大学は、1979 年創設の学生数 15,000 人の中規模の国立大学であり、8 学部と 19 の研究所からなる総合大学である。スイスやイタリアと国境を接するフランスのローヌアルプ地方サボア県のシャンベリー市とアヌシー市に 3 つのキャンパスがあり、本部はシャンベリーキャンパスにある。本学の 3 校ある海外教育研究拠点校の 1 つである。モンブラン山も近い。

本学とは、2000 年 4 月に工学部（現創造工学部）を主管部局として全学学術協定を締結し（当時の名称はサボア大学）、以来毎年継続的に学生を相互に派遣し、共同研究を展開してきた。2016 年に Thierry Villemin 副学長が香川大学を訪問した際に、両大学の交流の他分野への拡大を通じて一層の活性化を約束、その後両大学のスタッフの交流が頻繁に行われている。また 2017 年に、サボア・モンブラン大学が ERASMUS+※（エラスムスプラス）の助成金を獲得し、2018 年には、英語で実施する 4 か月コース（経営学分野）に経済学部生 1 名及び高等教育 4 か月コース（工学分野）に工学研究科生 1 名を派遣することができた。その後、相互の教職員による交流も活発になった。2019 年 10 月には、インターナショナルオフィスの「さぬきプログラム」に 1 名の留学生を受入れた。

また、2019 年 9 月に徳田雅明副学長らがサボア・モンブラン大学を訪問し、Laurence Vignollet 副学長らと会談を持った。

今回の大学間協定の更新を機に、創造工学部以外にもインターナショナルオフィス、経済学部、農学部等とも交流が拡がり、両大学の関係が一層強化されることが見込まれる。

※ERASMUS+ とは、ERASMUS(European Region Action Scheme for the Mobility of University Students)の拡大版。ERASMUS は、欧州の高等教育機関における多国間連携を推進し、学生および教職員の交流を質・量の両面にわたって向上させることを目指し、ERASMUS+は、対象を欧州圏と欧州域外との間の交流に拡大したもの。この枠組みによる交流助成金は、ヨーロッパの大学が申請し、採択されるとその協定校との交流に充てる事ができる。サボア・モンブラン大学と香川大学は ERASMUS+ の契約を締結している。

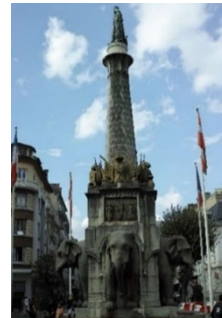




シャンペリーキャンパス本部



アヌシー湖



シャンペリーの街並み

国際交流の特色

サボア・モンブラン大学は、1979年近隣の各種学校を統合し創設された、学生数15,000人の中規模の国立大学である。8学部と19の研究所からなる総合大学で、法学、経済学、文学、社会学から、工学・科学までの幅広い領域をカバーしている。所在地は、フランスのローヌアルプ地方、隣接するシャンペリー市とアヌシー市に3つのキャンパスがあり、本部はシャンペリーキャンパスにある。2006年にサボア・モンブラン大学の2つの理工科学院が統合し、ポリテク・アヌシー・シャンペリーとなった。2000年4月に学術交流協定を締結以降、国際インターンシッププログラムによって継続的に学生の受入・派遣を行っており、相互に活発な交流が続いている。2008年には、工学部の第1回協定校訪問により、学生17名・教職員5名を派遣して交流を行っている。

交流実績（平成29年度～31年度）

年度	H29	H30	H31
受入・派遣			
学生の受入	2	1	3
学生の派遣	2	1	1
研究者・職員の受入	0	1	0
研究者・職員の派遣	0	0	0



国際インターンシップの様子

学生からの声

私は2019年9月から約4か月間、サボア・モンブラン大学にて、数理モデルを用いて脳波異常を検出する研究を行いました。英語での進捗報告や、他学生と議論を交わすことによって、自分の考えを英語で表現する力を養うことができたと思います。私が生活していたアヌシーは自然に囲まれ、治安も大変よく安心して過ごすことができましたが、始めは慣れない国での生活や、英語での研究に大きな不安もありました。皆さんもインターンに参加するかどうか考えるときに、同じような不安を感じると思います。しかし、皆さんの限られた学生生活を、他の国を知らないまま終わらせるのは非常にもったいないと思います。私は生まれてからずっと両親と香川で暮らしてきました。何も変化のない生活は非常に楽であると同時に、自分が成長する機会を奪っていたのだと思います。海外で生活をするということは、今まで出会ったことの無い文化や思想に触れる機会が多くあります。理解が難しかったり、対立することもあるでしょう。ですが、相手の育ってきた背景を理解し、受容した時、人として大きく成長できるのだと思います。

工学研究科 伊藤 佑一郎

教員からの声

サボア・モンブラン大学ポリテク・アヌシー・シャンペリーとの研究交流は工学部の発足時より続いており、毎年数名の学生の受入と派遣が行われています。当大学の国際交流窓口のPhilippe Bolon教授とは20年以上の親交があり、毎年のように本学を訪れています。私自身は当大学を訪れたことはありませんが、元同僚の教授は2001年以来、共同研究で毎年、訪問していました。そして、戻ってくるたびに、当大学のロケーションの素晴らしさを、「ヨーロッパ随一の透明度を持つアヌシー湖を見下ろす高台のキャンパス。真っ青な空と雄大なアルプスが眼前に広がっている」と表現し、最高の環境で研究できる喜びを伝えてくれていました。私の研究室では2014年からほぼ毎年1名の学生を受入れてきましたが、登山、ロッククライミング、トレラン、マウンテンバイク、スキーを楽しむ学生でした。Let's enjoy sports!

創造工学部教授 石井 明